

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

大野城市に来る・住む・集う推進プロジェクト

2 地域再生計画の作成主体の名称

大野城市

3 地域再生計画の区域

大野城市の全域

4 地域再生計画の目標

大野城市は、平成 24 年度に市制施行 40 周年を迎え、平成 28 年 8 月 18 日には、人口も住民基本台帳上で 10 万人に達した。まちには、縦横に交通網が整備され、多くの家やビル、様々な店舗や事業所が立ち並んでいる。そして、御笠川や四王寺山、牛頸川などの自然と、1350 年の時を刻んだ数々の歴史遺産に見守られながら、私たちはここ「ふるさと大野城」に生きている。

特に、大野城市が有する歴史遺産群は、「特別史跡 大野城跡・水城跡」や「牛頸須恵器窯跡群」など、国指定の貴重な史跡であり、古代人の息吹を感じさせるスポットが随所に存在する味わい深いまちとなっている。

このような様々な要因や、これまでの市のまちづくりの取り組みから、平成 28 年 1 月発刊の「日経ビジネス」では、「活力ある都市ランキング」で全国第 2 位にランクインされた。

しかし、全国を取り巻く状況は、決して楽観視できないものである。人口減少と少子高齢化が急速に進み、平成 27 年 10 月に実施された国勢調査では、大正 9 年の調査開始以来、初の総人口減少を記録した。大野城市の人口推移の予測では、全国に比べ、人口減少の進行度合いは遅く、令和 7 年頃まで人口増が予測されているが、その後は減少に転じる見込みである。また、少子高齢化についても、現在は出産を控えた世帯の転入が多いことから、大きな影響は出ていないものの、死亡数は漸増しており、今後急速に少子高齢化が進む可能性がある。

これらを踏まえ、大野城市では、まちの活力を維持・発展させるために、「にぎわい」を生み出し、大野城市に来る人、住む人、集う人を増やしていくことを目指す。また、「まちの宝」を生み出すことで、本市に愛着や誇りを持ってもらえるような魅力あるまちづくりを進めていく。

この地域再生計画では、「人々が集い つながり そしてその輪が広がるふるさと大野城」を基本的な理念に、平成 30 年 7 月に開館した、「大野城心

のふるさと館」に関する事業を核として、本市に新たな集客と交流の拠点を構築するものである。第1次計画（平成29年度～令和元年度）において、「大野城心のふるさと館」を拠点とした事業活動により、ふるさと意識の醸成や新たなにぎわいの創出に繋がった（例えば、「大野城心のふるさと館年間来館者・事業参加者数」については、H30年度に74,022人を達成）。

今後も更に、市内外から多くの人々にも集ってもらうことで、市内外の人々の交流の場とするとともに、歴史・こども・にぎわいにおける大野城市の良さを知ってもらう、再認識してもらう必要があるため、引き続き令和6年度まで各事業に取り組むこととする。

【数値目標】

K P I	大野城心のふるさと館年間来館者・事業参加者数	年月
申請時	0人	H29.3
初年度	0人	H30.3
2年目	50,000人	H31.3
3年目	100,000人	R2.3
4年目	100,000人	R3.3
5年目	100,000人	R4.3
6年目	100,000人	R5.3
7年目	100,000人	R6.3
8年目	100,000人	R7.3

K P I	①市内史跡等でのイベント開催回数	②イベントでの集客人数	年月
申請時	0回	0人	H29.3
初年度	12回	2,000人	H30.3
2年目	14回	2,500人	H31.3
3年目	17回	3,000人	R2.3
4年目	55回	5,300人	R3.3
5年目	56回	5,350人	R4.3
6年目	56回	5,350人	R5.3
7年目	57回	5,400人	R6.3
8年目	57回	5,400人	R7.3

K P I	市内鉄道駅の年間乗降客数	年月
申請時	2,051万人	H27.3（直近）
初年度	2,100万人	H30.3
2年目	2,150万人	H31.3
3年目	2,256万人	R2.3
4年目	2,510万人	R3.3
5年目	2,520万人	R4.3
6年目	2,530万人	R5.3
7年目	2,540万人	R6.3
8年目	2,550万人	R7.3

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

交通の利便性が高く、都心部では住居や店舗、事業所などでにぎわう、都心部において平成30年7月に開館した、「大野城心のふるさと館」の整備を進めていく。

この「大野城心のふるさと館」は、歴史・子ども・にぎわい（観光）をテーマに、「ふるさと大野城」を体感できる施設であり、多様な機能の融合によって、様々な世代が利用し、交流を深めることができる施設となる予定で、大野城市の新たな「顔」とも言える施設となる。

この施設を交流の核とし、「ふるさと大野城」を感じさせる様々な事業を展開するとともに、西鉄高架化に伴う中心市街地の整備や大野城トレイル事業による、ふるさと館と市内各所をつなぐ線と面の整備、そして大野城市にぎわいづくり協議会の設立・運営やPRキャラクターを活用した本市のPR事業などによる大野城市の情報発信を強化する。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する特例（内閣府）：【A2007】

- (1) **事業名**：大野城市に来る・住む・集う推進プロジェクト
 （大野城心のふるさと館運営事業）

(2) 事業区分：観光業の振興

(3) 事業の目的・内容

(目的)

大野城心のふるさと館は、歴史・こども・にぎわい（観光）をキーワードに、市民活動と市内外への情報発信の拠点として事業を展開していくこととしている。PRグッズやPR動画の作成等広報を充実させるとともに、開館にあわせた記念イベントを開催することで、大野城市の新たな「顔」、交流の拠点の誕生を広く知らせることにより、大野城市に市外の方々を多数呼び込み、施設を通じた世代を超えた交流を生み出すとともに、市民、特に子どもたちの心にふるさと意識を醸成し、心の拠り所としての「ふるさと大野城」を次代につないでいく。

これら市内外へのアプローチにより、本市への来訪者を増やす、本市のファンを増やす、住みたいまちとして本市を選ぶ人を増やす、そして住んで良かったと思ってもらえる人を増やす、つまり「ふるさと大野城」を選択する人を増やすことを目指す。

施設の運用に当たっては、市民を中心とした多くの利用者が、新施設を介してふるさとへの愛着と誇りを感じることができるよう、事業や運営に参画する市民ボランティアの育成、(一社)大野城市にぎわいづくり協議会をはじめとした多方面の機関・団体と連携していく。

(事業の内容)

(基本的な方向性)

大野城心のふるさと館は、歴史や観光など大野城市の魅力を大野城市内外に発信することで、市外に対しては、多数の方々を呼び込み交流を生み出し、大野城市のにぎわいを創出するとともに、ふるさと館を通して大野城市の良さを実感してもらい、「ふるさと大野城」を選択する人を増やしながらか、大野城市への移住・定住の拡大にも繋げていく。また市内に対しては、市民のふるさと意識を醸成していき、大野城市に住んでいて良かったと、「ふるさと大野城」に誇りや愛着を持ってもらえるようにしていく。

また、「ふるさとをテーマとして、歴史・こども・にぎわい（観光）をキーワードに、市民と協働・連携した事業活動を展開し、子どもから高齢者まで世代を超えた交流や市民活動が行える場」とすることとしている。これら目的に対して市民ニーズを反映させ、大野城心のふるさと館の方向性を以下のとおり掲げている。

- a. 市民が参加し活動する場をつくり、賑わいのある施設構成とする。
- b. 子どもを中心に知的好奇心を養うような体験・体感を主とした展示、学習機能、プログラムを整備する。
- c. 収蔵部門や調査研究部門は、市民が文化財に親しみやすくなるような公開可能な構成・運用とする。
- d. 市民参加を促す調査研究活動を積極的に行う。
- e. 館から屋外へ、屋外から館へ、市内全域で連携する事業活動を行う施設とする。
- f. 多世代の市民が交流・継承していく新しい事業活動の仕組づくりを行う。
- g. 市民の参画と協働による管理運営形態を構築していく。

(事業の対象)

福岡都市圏を主なターゲットとしながら、周辺自治体はもちろん、国内外からも広く来館者が集まるような、大野城市ならではの特徴を活かした事業を実施していくことで、この拠点を中心として、周辺の自治体への周流を含んだ人の流れを創出していく。

(具体的な事業内容)

歴史をテーマとした事業では、隣接する施設である、大野城まどかぴあとも連携して、体験型事業を実施するとともに、館内での展示ツアー、バックヤードツアー、館外では大野城市に点在する史跡等を巡るツアー、学習や展示のプログラムを実施する。

交流をテーマとした事業では、高齢者から子どもたちへ、昔あそびや大野城市の昔の暮らしなどを通したプログラムを実施するとともに、カフェやラウンジなどにおいて、市内外の幅広い層の来館者に対し、交流の場を提供する。

また関連する各施設、団体との連携では、市内施設の情報発信や、所蔵品の貸し出しを行うとともに、団体と様々なイベントで連携を図っていく。

→各年度の事業内容（令和元年度まで）

初年度) 初年度は、翌年の開館に向けての準備作業として、施設のPR動画の作成、PRグッズの制作、施設のオリジナルグッズの制作、開館1年前イベントなどを実施する。また、施設管理や、事務器材(机、キャビネット等)、OA機器等、事業運営に必要な備品の購入などを実施していく。

2年目) 2年目については、平成30年夏頃の開館にあわせたオープニングイ

イベントを開催する。開館後については、マルチモニターを活用した、様々な情報の発信や、こどもたちが楽しみながら歴史に触れることができる、体験メニューの実施、古典文学や考古学などの各種講座、収蔵品の展示や歴史・こども・にぎわいなどをテーマとした企画展示などを実施していく。また、大野城市に関連する歴史、文化、地域資源などの貴重な資料を収集保存し、調査を進め、それらの普及や活用に繋げていく。

3年目) 前年度に引き続き、マルチモニターを活用した情報発信、歴史体験メニューの実施、古典文学や考古学などの各種講座、収蔵品や企画展示などを実施していく。また、大野城市に関連する歴史、文化、地域資源などの資料収集保存、調査を進め、それらの普及や活用に繋げていく。

(4) 地方版総合戦略における位置付け

大野城市まち・ひと・しごと創生総合戦略においては、基本目標2「大野城市への新しいひとの流れをつくる」の主な施策である「観光やにぎわいの場づくりと情報発信」の、「大野城心のふるさと館の運営」の具体的な取り組みとして、当事業「大野城心のふるさと館運営事業」を位置づけている。当事業を推進することで、本計画の数値目標である、大野城心のふるさと館年間入館者数100,000人の達成や、関連事業を含めた目標である市内史跡等でのイベント開催回数57回、イベントでの集客人数5,400人の達成を目指すとともに、総合戦略基本目標2の数値目標の達成に寄与するもの。

(5) 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

事業	大野城心のふるさと館運営事業	年月
	ふるさと館年間来館者・事業参加者数	
申請時	0人	H29.3
初年度	0人	H30.3
2年目	50,000人	H31.3
3年目	100,000人	R2.3
4年目	100,000人	R3.3
5年目	100,000人	R4.3
6年目	100,000人	R5.3
7年目	100,000人	R6.3
8年目	100,000人	R7.3

事業	大野城心のふるさと館運営事業		年月
K P I	①市内史跡等での イベント開催回数	②イベントでの 集客人数	
申請時	0回	0人	H29.3
初年度	12回	2,000人	H30.3
2年目	14回	2,500人	H31.3
3年目	17回	3,000人	R2.3
4年目	55回	5,300人	R3.3
5年目	56回	5,350人	R4.3
6年目	56回	5,350人	R5.3
7年目	57回	5,400人	R6.3
8年目	57回	5,400人	R7.3

事業	大野城心のふるさと館運営事業	年月
K P I	市内鉄道駅の年間乗降客数	
申請時	2,051万人	H27.3 (直近)
初年度	2,100万人	H30.3
2年目	2,150万人	H31.3
3年目	2,256万人	R2.3
4年目	2,510万人	R3.3
5年目	2,520万人	R4.3
6年目	2,530万人	R5.3
7年目	2,540万人	R6.3
8年目	2,550万人	R7.3

(6) 事業費 (令和元年度まで)

(単位：千円)

大野城心の ふるさと館 運営事業	年度	H29	H30	H31 (R1)	合計
	事業費計	108,497	192,319	149,565	450,381
区分	賃金	9,400	15,310	15,310	40,020
	報償費	736	200	0	936
	旅費	567	505	374	1,446
	需用費	9,083	17,129	17,805	44,017
	役務費	11,934	72,454	82,238	166,626
	委託料	24,791	31,460	20,850	77,101
	工事請負費	1,275	286	0	1,561
	使用料及び 賃借料	291	12,667	12,948	25,906
	備品購入費	50,420	42,268	0	92,688
	負担金補助 及び交付金	0	40	40	80

(7) 申請時点での寄附の見込み (令和元年度まで)

(単位：千円)

年度	H29	H30	H31 (R1)	計
法人名	(有) さくら ハウジング	同左	同左	
見込み額 (千円)	100	100	100	300

(8) 事業の評価の方法 (PDCAサイクル)

(評価の手法)

事業のKPIについては、実績値を公表する。大野城市で実施している、統合型行政評価システム「大野城市公共サービスDOCK事業」における外部評価を用い、確認を行う。

(評価の時期・内容)

毎年度、3月末時点の基本目標や、K P I の達成状況を外部評価の担当課が取りまとめ、「大野城市公共サービス D O C K 事業」の枠組みを活かして、外部による評価を行う（2月頃）。評価結果は施策や戦略の見直し等につなげていく。

(公表の方法)

目標の達成状況等の評価結果は、速やかに H P、広報紙で公表するとともに、適宜市民や関係団体への説明を行う。

(9) 事業期間

平成29年4月～令和7年3月

(10) 寄附の金額の目安

831,055千円（令和2年度～令和6年度累計）

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

(1) P R キャラクター「大野ジョー」を活用した本市の認知度アップ

事業概要：大野城跡の「百間石垣」をモチーフにしたキャラクター「大野ジョー」の普及啓発を通じ、本市及び「大野城」の歴史資源の P R を行い、郷土愛の醸成や、本市への流入人口の増加を図るもの。

実施主体：大野城市

事業期間：平成28年度～

(2) 「大野城市にぎわいづくり協議会」の設立及び運営

事業概要：これまでの研究成果や、着地型観光事業の成果などを踏まえ、地域資源情報を有効に活用して本市の魅力を広く発信していき、「持続的なまちの活力創出」を目指すもの。

実施主体：大野城市

事業期間：平成27年度～

(3) 高架下有効利用の及び市街地活性化計画の検討

事業概要：大野城市内を縦断する、西鉄天神大牟田線の高架化事業に伴い、高架下のスペース及び側道の空間を有効活用し、市街地の活性化を計画していくもの。踏み切りによる渋滞の緩和とともに、線路により分断されていた地域の一体化を図り、にぎわいのあるまちづくりを目指す。

実施主体：大野城市

事業期間：平成 26 年度～平成 29 年度

(4) 大野城トレイルの整備

事業概要：大野城市の史跡や自然、文化に触れることができるよう、それらのスポットをルート化し、順路の案内表示を設置していく。ルートを巡ることで、大野城市の施設や史跡をつなぎ、ふるさと意識の醸成や、観光に資するもの。

実施主体：大野城市

事業期間：平成 26 年度～平成 30 年度

(5) 大野城心のふるさと館整備事業

事業概要：市の史跡（大野城跡・水城跡・牛頸須恵器窯跡群）をはじめとする文化財の活用と、大野城市の魅力につながる各種地域資源の発信による市外の方々の呼び込みと、市民、特に子どもたちのふるさと意識を醸成するための事業拠点として整備するもの。

実施主体：大野城市

事業期間：平成 26 年度～平成 30 年度

6 計画期間

地域再生計画認定の日から令和 7 年 3 月 31 日まで

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況にかかる評価の手法

毎年度、3 月末時点の基本目標や、K P I の達成状況を企画政策部が取りまとめ、「大野城市公共サービス D O C K 事業」の枠組みを活かして、外部による評価を行う。評価結果は施策や戦略の見直し等につなげ、評価結果は速やかに公表するとともに、適宜市民や関係団体等への説明を行う。

7-2 目標の達成状況にかかる評価の時期及び評価を行う内容

毎年2月ころに、「大野城市公共サービスDOCK事業」の枠組みを活かして、外部による評価を行う。評価結果は施策や戦略の見直し等につなげていく。

7-3 目標の達成状況にかかる評価の公表の手法

目標の達成状況等についての評価結果は、速やかに大野城市HP、及び広報紙で公表するとともに、適宜市民や関係団体等への説明等を行う。